

2026年度 長岡大学シラバス

授業科目名	商業簿記2 (Commercial Bookkeeping 2)					担当教員	中村 大輔 (ナカムラ ダイスケ)	
2020-23年度 入学者(20K-23K)	科目コード	科目区分	必修・ 選択区分	単位数	配当年次	開講期	科目 特性	資格対応科目／知識定着・確認 型AL
	2037-3-23-114	専門科目	選択	2単位	2年次	後期		
2024-26年度 入学者(24K-26K)	科目コード	科目区分	必修・ 選択区分	単位数	配当年次	開講期	科目 特性	資格対応科目／知識定着・確認 型AL
	2437-3-23-053	専門科目	選択	2単位	2年次	後期		

① 授業のねらい・概要						
商業簿記1・2では、1年次配当の簿記入門の知識を前提とし、商品売買業およびサービス業における高度な簿記を学ぶ。特に商業簿記2では日常の取引に関する仕訳に加え、精算表や財務諸表の作成、本支店会計、連結会計という高度かつ難易度の高い内容を学ぶ。本講義は事務・経理職を目指すために必須の知識であり、日商簿記検定2級に対応する科目である。						
② ディプロマ・ポリシーとの関連						
職業人として通用する能力／専門的知識・技能を活用する能力						
③ 授業の進め方・指示事項						
授業は講義・演習にPCを用いるのでPC必携である。毎回電卓を持参すること。 資料配付等にGoogle Classroomを活用する。						
④ 関連科目・履修しておくべき科目と履修に望ましい予備知識・技能						
「商業簿記1」を履修していることを前提に授業を進めていく（商業簿記2は商業簿記1の内容を学修していないと理解できない）。 「商業簿記1」「工業簿記1」「工業簿記2」と共に履修することを強く推奨する。						
⑤ テキスト(教科書) ※授業で使用する。						
紙の教科書は用いない。代わりとして『Funda 簿記』というPCを用いたシステムを利用し、個人アカウントを購入してもらう。（「商業簿記・2」「工業簿記1・2」すべて共通である。簿記入門の範囲も復習・演習可能である）						
⑥ 参考図書・指定図書 ※授業では使用しないが、授業内容に関係し、理解を深めるために必要とする。						
各年度に対応した予想問題集等。必要に応じて紹介する。						
⑦ 担当教員からのメッセージ（昨年度授業アンケートを踏まえての気づき等）						
Funda 簿記の利点（問題の出題や、学生個人の学修時間把握など）を活用し、検定合格につなげたい。						
⑧ 評価Aに対応する具体的な学習到達目標の目安						
(1) 日常の取引について本質的に理解し、検定試験レベルの問題を解くことができる。 (2) 財務諸表を作成でき、検定試験レベルの問題を解くことができる。 (3) 連結会計について理解し、連結精算表や連結財務諸表を作成でき、検定試験レベルの問題を解くことができる。						
⑨ ルーブリック						
評価基準		S	A	B	C	D
評価項目		到達目標を越えたレベルを達成している	到達目標を達成している	到達目標達成にはやや努力を要する	到達目標達成には努力を要する	到達目標達成には相当の努力を要する
(1)	日常の取引に関する仕訳	難易度の高いレベルの問題を正答できる。	標準的な検定レベルの問題を正答できる。	例題レベルの問題であれば全て正答できる。	標準・例題レベルの問題を総合して、6割は正答できる。	標準・例題レベルの問題を総合して、6割未満しか正答できない。
(2)	精算表や財務諸表の作成	難易度の高いレベルの問題を正答できる。	総勘定元帳への記入問題が合格レベルで正答できる。	例題レベルの問題であれば全て正答できる。	標準・例題レベルの問題を総合して、6割は正答できる。	標準・例題レベルの問題を総合して、6割未満しか正答できない。
(3)	連結会計の理解と連結精算表・連結財務諸表の作成	難易度の高いレベルの問題を正答できる。	損益計算書・貸借対照表作成問題が合格レベルで正答できる。	例題レベルの問題であれば全て正答できる。	標準・例題レベルの問題を総合して、6割は正答できる。	標準・例題レベルの問題を総合して、6割未満しか正答できない。

⑩ 学習の到達目標（評価項目）とその評価の方法、フィードバックの方法								
学習到達目標（評価項目）	定期試験 (レポート含む)	小テスト	課題	発表・ 実技	授業への 取組姿勢・意欲	その他	合計	
総合評価割合	80%		20%				100%	
(1) 日常の取引に関する仕訳	35%		10%				45%	
(2) 精算表や財務諸表の作成	20%		5%				25%	
(3) 連結会計の理解と連結精算表・連結財務諸表の作成	25%		5%				30%	
評価項目「その他」詳細								
フィードバックの方法	解説が必要な課題や、正答率が悪い課題等については解説を加える。							
⑪ 授業計画と学習課題								
回数	授業の内容	授業外の学習課題と時間（分）（※特別な持参物）						
1	ガイダンス、法人税・純資産取引①（税効果会計）	商業簿記1の復習を行い、課題に解答する						120分
2	法人税・純資産取引②（株式の発行）	株式発行に関する予習と課題の解答						120分
3	法人税・純資産取引③（配当・処分、合併）	配当・処分、合併に関する予習と課題の解答						120分
4	法人税・純資産取引③（合併）	合併に関する予習と課題への解答						120分
5	本支店会計①（期中仕訳）	本支店会計における期中仕訳の予習と課題の解答						120分
6	本支店会計②（決算手続き）	本支店会計の決算手続きの予習と課題の解答						120分
7	連結会計の概要①（連結会計の概要）	連結会計の概要を予習と課題の解答						120分
8	連結会計の概要②（財務諸表の合算・消去、連結財務諸表作成）	連結財務諸表作成を予習と課題の解答						120分
9	資本連結①（投資と資本の相殺消去）	投資と資本の相殺消去の予習と課題の解答						120分
10	資本連結②（開始仕訳とのれんの償却）	開始仕訳とのれん償却の予習と課題の解答						120分
11	資本連結③（連結精算表の作成：100%所有）	連結精算表の予習と課題の解答						120分
12	資本連結④（連結精算表の作成：部分所有）	連結精算表の予習と課題の解答						120分
13	成果連結①（内部取引高の相殺）	内部取引に関する予習と課題の解答						120分
14	成果連結②（未実現利益の消去）	未実現利益消去に関する予習と課題の解答						120分
15	まとめ	後期範囲全体の復習と課題の解答						120分
⑫ アクティブラーニングについて								
知識定着・確認型ALを採用する。Fundaを使い、毎回の出題範囲について課題を課す。解説が必要な問題や、正答率が悪い問題等については解説を加えることで、知識の定着・確認を図る。								

※以下は該当者のみ記載する。

⑬ 実務経験のある教員による授業科目
実務経験の概要
実務経験と授業科目との関連性